

## デュルケーム／デュルケーム学派研究会の開催記録

(所属は当時)

### ■第1回研究例会■2000年9月9日(土) 奈良女子大学文学部会議室

講演:今日におけるデュルケーム理論の意義 中久郎(京都大学名誉教授)

報告1:デュルケム(宗教)社会学と現代日本—エゴイズム／アノミーと集合的沸騰を中心に

芦田徹郎(甲南女子大学)

コメンテーター:梅沢精(新潟産業大学)

報告2:モノの社会学としてのモース「贈与論」 林大造(神戸大学)

コメンテーター:菊谷和宏(和歌山大学)

### ■第2回研究例会■2001年4月21日(土) 富山大学経済学部7階中会議室

テーマ:デュルケムと道徳

報告1:デュルケム道徳社会学を批判的に再構成するための基本的論点 景井充(立命館大学)

コメンテーター:嶋守さやか(金城学院大学)

報告2:モラル・エンジニアリングとしてのデュルケム道徳論とその今日性—第3共和制期のシヴィス

ム問題・時代診断・モラルサイエンス 太田健児(尚絅女学院短期大学)

コメンテーター:巻口勇一郎(立命館大学)

■第3回研究例会■2001年9月29日(土) 高野山・無量光院

テーマ:デュルケームにおける宗教・道徳・社会

報告1:フランスにおける宗教概念の変遷とデュルケーム宗教社会学の位置 手戸聖伸(東京大学)

コメンテーター:中島道男(奈良女子大学)

報告2:カとしての聖—デュルケーム集合力概念の再検討 岡崎宏樹(京都学園大学)

コメンテーター:大野道邦(奈良女子大学)

■第4回研究例会■2002年4月20日(土) 神戸大学神大会館会議室B

テーマ:デュルケームにおける法・国家・政治論

報告1:日本社会の刑罰と観衆:デュルケーム犯罪・刑罰論の応用

松永寛明(大阪市立大学大学院)

コメンテーター:薬師院仁志(帝塚山学院大学)

報告2:第三共和制前期における連帯概念とデュルケーム 田中拓道(北海道大学)

コメンテーター:白鳥義彦(神戸大学)

■第5回研究例会■2002年9月28日(土) 西南学院大学学術研究所大会議室

テーマ:フランス社会学における法と社会政策

報告1:近代社会における「気前のよさ」 藤吉圭二(高野山大学)

コメンテーター:荻野昌弘(関西学院大学)

報告2:デュルケム復原法概念の再検討—法を通じた道徳的秩序の復原

巻口勇一郎(常葉学園短期大学)

コメンテーター:三上剛史(神戸大学)

■第6回研究例会■2003年4月19日(土) 常葉学園大学

報告1:社会学の風景—階級から団地へ 宇城輝人(福井県立大学)

コメンテーター:江頭大蔵(広島大学)

報告2:社会学的方法の規準を考える 山下雅之(近畿大学)

コメンテーター:池田祥英(早稲田大学)

■第7回研究例会■2003年9月27日(土) 奈良女子大学

テーマ:デュルケム理論からみた社会の分化と統合

報告1:『社会分業論』におけるコミュニケーションの問題 野中亮(大阪樟蔭女子大学)

コメンテーター:横井敏秀(富山国際大学)

報告2:在日コリアンの祭—デュルケムの考察 飯田剛史(富山大学)

コメンテーター:小川伸彦(奈良女子大学)

■第8回研究例会■2004年4月24日(土) 広島大学・東千田キャンパス

テーマ:デュルケムにおける「個人」

報告1:デュルケーム社会学における「個人主義」の問題について 成定徹(関西学院大学)

コメンテーター:山田陽子(関西学院大学)

報告2:デュルケーム社会学におけるシンボルの役割—個人の認識行為に注目して

清水強志(創価大学)

コメンテーター:野中亮(大阪樟蔭女子大学)

■第9回研究例会 兼「デュルケーム=ジンメル合同研究会 高野山カンファレンス2004」

2004年9月25日(土)26日(日) 高野山大学/高野山・大円院

テーマ(1)近代とポスト近代

報告1:デュルケーム理論の現代性—エゴイズム・アノミー・共同体をめぐって

岡崎宏樹(京都学園大学)

報告2:社会学の終わりとジンメルのエトス—ディシプリンの知識空間をめぐって

野村一夫(国学院大学)

討論者:小川伸彦(奈良女子大学) 犬飼裕一(北海学園大学)

特別コメント:ブライアン・S・ターナー(ケンブリッジ大学) 司会:三上剛史(神戸大学)

テーマ(2)デュルケーム/ジンメルと現代社会学

報告1:ジンメルにおける〈われわれと排除の社会学〉とその可能性 杉本学(名古屋大学)

報告2:デュルケームにおける宗教、モースにおける呪術:現代社会学における社会像と人間像

林大造(ケンブリッジ大学)

討論者:菅野仁(宮城教育大学) 油井清光(神戸大学) 司会:早川洋行(滋賀大学)

テーマ(3)デュルケム/ジンメルと現代社会

報告1:社会学とは何であったのか—現代社会におけるデュルケム理論の意義

薬師院仁志(帝塚山学院大学)

報告2:ジンメル『ゲーテ』—モデルネにおける主体と人格 栗田圭子(上智大学)

討論者:山下雅之(近畿大学) 川本格子 司会:中島道男(奈良女子大学)

■第10回研究例会■2005年4月23日(土) 尚綱学院大学

テーマ:デュルケム、心理学、タルド

報告1:デュルケムとタルドの論争:sociologie と sciences sociales をめぐって

池田祥英(早稲田大学)

コメンテーター:北垣徹

報告2:デュルケムの道徳的個人主義と「心の時代」 山田陽子(広島国際学院大学)

コメンテーター:嶋守さやか(桜花学園大学)

■第11回研究例会■2005年10月1日(土) 早稲田大学

テーマ:デュルケム/トクヴィル/パーソンズ

報告1:パーソンズのデュルケム論—『社会的行為の構造』以後に着目して 西山宝恵(東北大学)

コメンテーター:油井清光(神戸大学)

報告2:トクヴィル、デュルケーム、ベルクソン—社会的人間観／社会観の歴史的形成と生の意味回

復への方途 菊谷和宏(和歌山大学)

コメンテーター:北川忠明(山形大学)

■第12回研究例会■2006年4月22日(土) 新潟産業大学

テーマ:デュルケームと現代—パーソンズ、ルーマン、プラグマティズム

報告1:パーソンズ／ルーマンのデュルケーム論 小林孝雄(創価大学)

コメンテーター:三上剛史(神戸大学)

報告2:プラグマティズム再考—ニーチェ、デュルケーム、ウィリアム・ジェームズ

北垣徹(西南学院大学)

コメンテーター:中島道男(奈良女子大学)

■第13回研究例会■2006年9月30日(土) 13:00~ 桜花学園大学 人文学部 514教室

テーマ:「連帯」の困難と可能性:デュルケム理論からの展開

総会 13:00~13:30 報告 13:30~17:30

報告1. 有機的連帯とネイション 安達智史(東北大学)

コメンテーター:横井敏秀(富山国際大学)

報告2. デュルケム人格崇拜論から、精神障害者の生活支援へ—『しょうがいしゃの皆サマの、ステ

キすぎる毎日』より 嶋守さやか(桜花学園大学)

コメンテーター:太田健児(尚絅学院大学)

■第14回研究例会■2007年4月21日(土) 13:00~17:30 奈良女子大学 人間文化研究  
科会議室(F棟5階)

総会 13:00~13:30 報告 13:30~17:30

報告1.人格崇拜と「役柄」概念—『フレーム分析』における「人-役割図式」からのアプローチ

木村雅史(東北大学)

コメンテーター:山田陽子(広島国際学院大学)

報告2. デュルケムにおける「社会の自己意識」の問題 横井敏秀(富山国際大学)

コメンテーター:梅沢精(新潟産業大学)

■第15回研究例会■2007年9月29日(土) 13:00~17:00 京都学園大学

テーマ:デュルケム理論の展開——タルド、ゴッフマン、パーソンズ

総会 13:00~13:30 報告 13:30~17:30

報告1. ゴッフマンによるデュルケム理論の受容再考——パーソンズとの比較を通じて

速水奈名子(神戸大学大学院学術研究員)

コメンテーター:木村雅史(東北大学大学院博士課程)

報告2. 発明と分業——功利主義をめぐるタルドとデュルケムの対比

中倉智徳(立命館大学大学院博士課程)

コメンテーター:菊谷和宏(和歌山大学)

■第16回研究例会■2008年4月19日(土) 13:00~17:30 和歌山大学経済学部本館棟5

階第二会議室

テーマ:デュルケムとモース:その現代的意義

総会 13:00~13:30 報告 13:30~17:30

報告1.デュルケムと市民宗教——ルソーとベラーのあいだ 伊達(手戸)聖伸(日本学術振興会)

コメンテーター:飯田剛史(富山大学)

報告2.モースの協同組合論 白鳥義彦(神戸大学)

コメンテーター:藤吉圭二(高野山大学)

■第17回研究例会■2008年10月4日(土) 13:00~17:30 神戸大学 文学部・人文学研究

科A棟1階学生ホール

テーマ:デュルケムと現代——聖なる人格のゆくえ

総会 13:00~13:30 報告 13:30~17:30

報告1.人間の聖性について——デュルケム、バタイユ、アガンベン 岡崎宏樹(京都学園大学)

コメンテーター:梅沢 精(新潟産業大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

報告2.個人化社会における相互行為 森 俊樹(京都大学大学院)

コメンテーター:山田陽子(広島国際学院大学) 司会:小川伸彦(奈良女子大学)



■第18回研究例会■2009年4月18日(土) 13:00~17:30 広島大学東千田404教室

テーマ:貨幣と宗教——デュルケム・モース・ベルクソン

総会 13:00~13:30 報告 13:30~17:30

報告1.ベルクソンとデュルケムにおける社会と宗教 小関彩子(和歌山大学)

コメンテーター:岡崎宏樹(京都学園大学) 司会:中島道男(奈良女子大学)

報告2.モースの「貨幣論」について 藤吉圭二(高野山大学)

コメンテーター:林大造(神戸大学) 司会:江頭大蔵

■第19回研究例会■2009年11月14日(土) 13:00~17:30 大谷大学

テーマ:21世紀の社会と社会学のために——デュルケム、モース、ルーマン

総会 13:00~13:30 報告 13:30~17:30

報告1.支援・援助・ケアの時代における贈与論——グローバリゼーション進行下の連帯のかたち

林 大造(神戸大学)

コメンテーター:岡崎宏樹(京都学園大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

報告2.モナドロジーと社会学——意識システムとモナド 三上剛史(神戸大学)

コメンテーター:大野道邦(京都橘大学) 司会:中島道男(奈良女子大学)

■第20回研究例会■2010年4月17日(土) 13:00~17:30 関西学院大学東京丸の内キャンパス

ンパス

テーマ:「社会学的認識の生成と応用——『宗教生活の原初形態』と『自殺論』をめぐって」

総会 13:00~13:30 報告 13:30~17:30

報告1. 逸脱と自殺——『自殺論』再考と秋田県の自殺 清水強志(専修大学)

コメンテーター:江頭大蔵(広島大学) 司会:小川伸彦(奈良女子大学)

報告2. ユートピア、野蛮／原初／未開、他界——三つの異空間表現と社会学 荻野昌弘(関西学院大学)

コメンテーター:伊達聖伸(東北福祉大学) 司会:中島道男(奈良女子大学)

■第21回研究例会■2010年10月23日(土) 13:00~17:30 京都学園大学 京町家キャンパス

テーマ:デュルケム／プラグマティズム／新労働党のデュルケミアン・ヘゲモニー

総会 13:00~13:30 報告 13:30~17:30

報告1. 新労働党のデュルケミアン・ヘゲモニー——「テロ防止」政策の批判的検討

安達智史(日本学術振興会)

コメンテーター:三上剛史(神戸大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

報告2. プラグマティズム・インパクト——生と行動の社会学 北垣徹(西南学院大学)

コメンテーター:太田健児(尚絅学院大学) 司会:小川伸彦(奈良女子大学)

■第22回研究例会■2011年4月16日(土) 13:00~17:30 和歌山大学まちかどサテライト

セミナー室2 フォルテワジマ 6階

テーマ:タルドとモースの革新—デュルケム学派の内外

総会 13:00~13:15 報告 13:15~17:30

報告1. 発明し模倣する個人からなるアソシアシオン——ガブリエル・タルドにおける社会学と経済

心理学 中倉智徳(立命館大学)

コメンテーター:池田祥英(早稲田大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

報告2. 初期モースの宗教論について 溝口大助(東京外国語大学)

コメンテーター:藤吉圭二(高野山大学) 司会:中島道男(奈良女子大学)

■第23回研究例会■2011年10月1日(土) 13:00~17:30 西南学院大学 西南コミュニテ

ィーセンター2階会議室

テーマ:デュルケム——社会学方法論と生

総会 13:00~13:15 報告 13:15~17:30

報告1. 一種独特の非物質性をめぐって—エミール・デュルケムの社会概念の展開のために

多田光宏(早稲田大学)

コメンテーター:油井清光(神戸大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

報告2. 社会科学の科学性と我々の生—デュルケム社会学と不死性について 菊谷和宏(和歌山

大学)

コメンテーター:梅沢 精(新潟産業大学) 司会:中島道男(奈良女子大学)

■第24回研究例会■2012年4月14日(土) 13:00~17:30 上智大学四谷キャンパス 2-510 教室(2号館5階)

テーマ:集合表象をめぐる——記憶とカテゴリー

総会 13:00~13:15 報告 13:15~17:30

報告1.アルヴァックスの集合的記憶論 金 瑛(京都大学大学院博士課程)

コメンテーター:大野道邦(京都橘大学総合研究センター) 司会:小川伸彦(奈良女子大学)

報告2.『宗教生活の原初形態』における「カテゴリー論」再考 太田健児(尚絅学院大学)

コメンテーター:伊達聖伸(上智大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

■第25回研究例会■2012年10月13日(土) 13:00~17:30 高野山 別格本山 大円院

テーマ:「デュルケームとタルド——『宗教生活の原初形態』刊行百周年のときに」

総会 13:00~13:15 報告 13:15~17:30

報告1. タルドのモノド論について 池田祥英(早稲田大学)

コメンテーター:三上剛史(神戸大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

報告2.沸騰の社会学——方法論的探求 岡崎宏樹(京都学園大学)

コメンテーター:梅沢 精(新潟産業大学) 司会:中島道男(奈良女子大学)

■第26回研究例会■2013年4月13日(土) 13:00~17:30 熊本大学黒髪北地区キャンパ

ス くすの木会館・レセプションルーム

総会 13:00~13:15

第1部:研究報告

ラトゥールとタルド—人類学の「静かな革命」とモナド論 中倉智徳(日本学術振興会特別研究員

(PD)大阪府立大学) コメンテーター:北垣 徹(西南学院大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

第2部:デュルケーム没後 100 周年記念企画について—科学研究費助成申請書案の検討を中心

に 小川伸彦(奈良女子大学)・岡崎宏樹(京都学園大学) 司会:中島道男(奈良女子大学)

■第27回研究例会■2013年10月5日(土) 13:30~18:15 キャンパスプラザ京都

テーマ:モース理論の可能性と現代

第1部:研究報告 13:30~17:15

報告1.モース宗教理論の変遷——「聖性」理論の変化 溝口大助(東京外国語大学)

コメンテーター:飯田剛史(大谷大学) 司会:小川伸彦(奈良女子大学)

報告2.モースと社会運動論の現在 林大造(神戸大学)

コメンテーター:藤吉圭二(高野山大学) 司会:中島道男(奈良女子大学)

第2部:総会 17:20~18:15

■第28回研究例会■2014年4月12日(土) 13:30~18:30 ナレッジキャピタル

テーマ:Revue du M.A.U.S.S.をめぐって

総会 13:15~13:30

報告1.Revue du M.A.U.S.S. No 38 紹介 藤吉圭二(高野山大学)

コメンテーター:林大造(神戸大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

報告2.Revue du M.A.U.S.S.における「贈与論」受容の傾向 中倉智徳(大阪府立大学)

コメンテーター:溝口大助(東京外国語大学) 司会:小川伸彦(奈良女子大学)

■第29回研究例会■2014年10月11日(土) 13:30~18:30 和歌山大学教育学部

総会 13:00~13:15

報告1.ブルデューとともに、ブルデューを乗り越える—ブルデュー理論における主観/客観の関係

についての再検討 村田賀依子(奈良女子大)

コメンテーター:中倉智徳(大阪府立大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

(2)デュルケム命題集への試み 大野道邦[レジュメ参加]・小川伸彦(奈良女子大学)・山田陽

子(広島国際学院大学)・吉本惣一(横浜国立大学)(50音順)

司会:小川伸彦(奈良女子大学) (附)科研費申請についての経過報告

■第30回研究例会■2015年4月18日(土) 13:00~17:30 文京学院大学 本郷キャンパス

B号館 408 教室

テーマ:デュルケムとベルクソン

総会 13:00~13:15

報告1.デュルケムの「道徳的個人主義」について 野々村元希(同志社大学大学院)

コメンテーター:杉谷武信(日本大学) 司会:小川伸彦(奈良女子大学)

報告2.デュルケムとベルクソンにおける知性と知性を超えるもの—概念的思考の位置づけ

小関彩子(和歌山大学)

コメンテーター:太田健児(尚絅学院大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

■第31回研究例会■2015年10月10日(土) 13:00~17:30 奈良女子大学 生環系E棟

107 室

総会 13:00~13:30

第1部:自由報告 13:30~15:00

9.11 テロからイラク戦争へ——「集合意識」による解明・試論 飯田剛史(大谷大学)

コメンテーター:林 大造(神戸大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

第2部 デュルケム解釈に関するミニシンポジウム 15:15~17:30

報告

「自殺論」の解釈史 江頭大蔵(広島大学)

バタイユのデュルケム解釈 岡崎宏樹(神戸学院大学)

バウマンのデュルケム解釈 中島道男(奈良女子大学)

パーソンズに対するデュルケームの影響 白鳥義彦(神戸大学)

アルヴァックスに対するデュルケームの影響 横山寿世理(聖学院大学)

全体討議 司会:小川伸彦(奈良女子大学)

■第32回研究例会■共催:科研費研究「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か—デュルケーム社会学を事例として」2016年4月16日(土) 13:00~17:30 文京学院大学 本郷キャンパスB館408教室

総会 13:00~13:30

第1部 自由報告 13:30~15:00

人格的共同社会と人類的共同社会のあいだ—デュルケームの *culte de l'homme* とサン=テグジュペリの *culte de l'Homme* をめぐって 芦田徹郎(甲南女子大学)

コメンテーター:梅沢精(新潟産業大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

第2部 科研関連報告ミニシンポジウム 15:15~17:30

共通テーマ:社会学的方法の規準成立の“周辺”

共通テーマ:社会学的方法の規準成立の“周辺”

・社会思想から“社会学”へ——実証主義の系譜の再編の試み 太田健児(尚絅学院大学)

・ジャン=マリー・ギュイオーの宗教論と道德論 北垣徹(西南学院大学)

・抽象的思考と具体的現実認識における社会の役割 小関彩子(和歌山大学)

全体討議 司会:小川伸彦(奈良女子大学)



■第33回研究例会■2016年10月22日(土) 奈良女子大学 文学系S棟128室

総会 13:00~13:30

第1部 自由報告 13:30~15:30

デュルケーム/デュルケーム学派とガストン・リシャール 池田祥英(北海道教育大学函館校)

コメンテーター:北垣 徹(西南学院大学) 司会:江頭大蔵(広島大学)

第2部 科研関連ミニシンポジウム 15:45~17:30

テーマ:海外でのフランス社会学受容について——スペイン、韓国、台湾を事例に

報告

・日程・概要など 藤吉圭二(追手門学院大学)

・スペイン調査について 吉本惣一(横浜国立大学) 川本彩花(京都大学)

・韓国調査について 林大造(神戸大学) 中倉智徳(立命館大学)

・台湾調査について 速水奈名子(神戸大学)

司会:小川伸彦(奈良女子大学)

■第34回研究例会■(科研費研究「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か——デュルケーム社会学を事例として」第4回全体研究会)2017年4月15日(土) 文京学院大学 本郷キャンパス B館410教室

総会 13:00~13:30

第1部 自由報告 13:30~15:00

第1部 自由報告 13:30~15:00

デュルケムの社会学的思考と政治哲学——「世論 (opinion)」の概念を手がかりに

赤羽 悠 (東京大学)

コメンテーター:池田祥英 (北海道教育大学函館校) 司会:中島道男 (奈良女子大学)

第2部 科研関連報告ミニシンポジウム 15:15~17:30

共通テーマ:社会学教育におけるデュルケム/デュルケム学派——日仏英米独の事例から

・索引の中のデュルケム—装置としての教科書から<古典化>プロセスを解読する手法について

小川伸彦 (奈良女子大学)

・デュルケム社会学の語られ方—日本の社会学教科書分析を通して 横山寿世理 (聖学院大学)

・日本の社会学教科書における理論・学説の教授法 川本彩花 (京都大学)

・ドイツの大学教育における社会学史・社会学理論とデュルケム—シラバスと教科書から

梅村麦生 (京都大学)

・日本およびフランスの社会学教科書におけるデュルケム 白鳥義彦 (神戸大学)

全体討議 司会:江頭大蔵 (広島大学)

■第35回研究例会■ 国際シンポジウム

■■東京会場 2017年9月18日(月・祝)13:30~18:00 日仏会館

社会の境界と社会学の境界—社会学のディシプリン再生はいかにして可能か

Limites de la société / Frontières de la sociologie: Quels renouvellements pour la  
discipline sociologique ?

## 第一部 講演

タイトル: La sociologie durkheimienne de la citoyenneté : apports et limites.

市民性をめぐるデュルケーム社会学——寄与と限界

講演者: Yves DÉLOYE イヴ・デロワ (ボルドー政治学院 Sciences Po Bordeaux 院長,  
エミール・デュルケーム研究センター員)

司会: 白鳥義彦 (神戸大学)

## 第二部 報告

1. 非合理性と流動性——社会学の境界で考える Irrationalité et liquidité.

岡崎宏樹 (神戸学院大学)

2. 不可視の他者——社会学的伝統の埒外にあるもの

La présence invisible d'autrui : ce qui échappe au cadre classique de la sociologie.

荻野昌弘 (関西学院大学)

司会 北垣徹 (西南学院大学)

主催: 科学研究費補助金・基盤研究 (B) 「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か——デュルケーム社会学を事例として」 (15H03409), 日仏社会学会, デュルケーム/デュルケーム学派

研究会 共催: (公財) 日仏会館、日仏会館フランス事務所

※シンポジウムでの各報告は『日仏社会学年報』29 巻, pp.27-74, 2018 に収録している

[https://www.jstage.jst.go.jp/browse/nichifutsusocio/29/0/\\_contents/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/browse/nichifutsusocio/29/0/_contents/-char/ja)

■ ■ 京都会場 2017年9月21日(木) 13:00~18:30 キャンパスプラザ京都

テーマ: 古典から現代へ—社会学のディシプリン再生はいかにして可能か

Lire l'actualité à travers les oeuvres classiques : Quels renouvellements pour la discipline sociologique ?

司会 白鳥義彦(神戸大学)

### 第一部 講演

タイトル: La sociologie durkheimienne et l'histoire : Durkheim peut-il être considéré comme un précurseur de la sociologie historique?

デュルケーム社会学と歴史学—デュルケームは歴史社会学の先駆者にとらえられ得るか?

講演者: Yves DÉLOYE イヴ・デロワ

### 第二部 科研各班からの報告

エスピナス、タルドからデュルケームへ 池田 祥英

個人と社会の異質性とディシプリンの変容 江頭 大蔵

デュルケーム受容の国際比較: 東アジアを中心として 中倉 智徳

デュルケーム社会学の受け継がれ方: 教科書分析を通じて 横山 寿世理

主催: 基盤研究(B) 社会学のディシプリン再生はいかにして可能か(15H03409)、デュルケーム

／デュルケーム学派研究会、立命館大学生存学研究センター

※講演の内容は、北垣徹訳「デュルケーム社会学と歴史学：デュルケームは歴史社会学の先駆者ととらえられ得るか?」『社会学雑誌』35・36号，pp.319-333，2019年として刊行している。

<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/E0041996/>

■■奈良会場 2017年9月22日(金)11:00~14:00 奈良女子大学

ラウンド・テーブル:イヴ・デロワ氏を囲んで

主催:基盤研究(B)社会学のディシプリン再生はいかにして可能か(15H03409)、デュルケーム  
／デュルケーム学派研究会

■第36回研究例会■2018年4月14日(土) 文京学院大学本郷キャンパス

第1部:自由報告

デュルケーム社会的連帯論における道徳的原理—「ユダヤの本質」に注目して 平田文子

司会 江頭大蔵(広島大学)

第2部:科研関連ミニシンポジウム

デュルケーム社会学の形成・成立とその独自性—『社会学的方法の規準』成立の諸相

太田・吉本・赤羽・菊谷

■第37回研究例会■ 国際シンポジウム

■■【東京会場】2019年2月27日(水)13:30~18:00 日仏会館

テーマ:メディアと公共空間:メディアは誰のものか

Medias et espace public : à qui appartiennent les medias ?

講演

タイトル:Chasse aux fake news: une panique morale?

フェイクニュース狩り:道徳的パニック?

講演者: Cyril LEMIEUX シリル・ルミュー(社会科学高等研究院 EHESS)

報告1.「誰もが情報発信できる時代」に発信されないもの What remains unshared in the age when anyone can be source of information 藤吉圭二(追手門学院大学)

報告2. 「ポスト真実」の時代における「記憶」と「記録」の関係 Relations entre « mémoire » et « enregistrement » à l'âge de « post-vérité » 金瑛(関西大学)

司会 白鳥義彦(神戸大学)

主催:科学研究費補助金・基盤研究(B)「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か」(15H03409)、日本学術振興会「学術研究動向等に関する調査研究」、日仏社会学会、デュルケーム/デュルケーム学派研究会

共催:日仏会館・フランス国立日本研究所

■■【奈良会場】2019年3月4日(月)13:30~18:00 奈良女子大学

テーマ:デュルケームとタルド:その現代的意義

Durkheim et Tarde : leurs significations actuelles

## 講演

タイトル: La conception durkheimienne du normal et du pathologique et ses conséquences politiques 正常と病理のデュルケーム的概念とその政治的帰結

講演者: Cyril LEMIEUX シリル・ルミュー

報告1. 神話としての民主主義:デュルケームにおける政治と人類学

La démocratie en tant que mythe : la politique et l'anthropologie chez Durkheim

赤羽悠 AKABA Yu (早稲田大学 / LIER-FYT)

報告2. ガブリエル・タルドと社会的無意識 Gabriel Tarde et l'inconscient social

笠木丈 (社会科学高等研究院 EHESS 博士課程)

・主催: 科学研究費補助金・基盤研究 (B) 「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か」

(15H03409)、日本学術振興会「学術研究動向等に関する調査研究」、日仏社会学会、デュ

ルケーム/デュルケーム学派研究会

共催: 奈良女子大学社会学研究会

※講演の内容は、北垣徹訳「デュルケームにおける正常なものと病的なもの概念と、その政治

的帰結」『日仏社会学会年報』30 巻, pp. 58-78, 2019 年として刊行している

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/nichifutsusocio/30/0/30\\_58/\\_article/-](https://www.jstage.jst.go.jp/article/nichifutsusocio/30/0/30_58/_article/-)

[char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/nichifutsusocio/30/0/30_58/_article/-char/ja/)

■■ラウンドテーブル 2019年3月5日(火) 10:00~13:00 奈良女子大学

テーマ: シリル・ルミュー氏を囲んで Table ronde : autour de M. Cyril LEMIEUX

話題提供 フランスにおける社会学の展開 L' évolution sociologique en France

※ ラウンドテーブルの内容は、白鳥義彦訳「フランスにおける社会学の展開」『社会学史研究』42号,pp.133-152, 2020年. として刊行している。

■第38回研究例会■2019年12月21日(土) 奈良女子大学

2020年1月11日(土) 文京学院大学本郷キャンパス

内容:下記科研の成果報告書合評会

科学研究費補助金・基盤研究(B)「社会学のディシプリン再生はいかにして可能か」  
(15H03409)

■第39回研究例会■ 国際シンポジウム(新型コロナ禍のため全会場開催延期)

■■奈良会場【延期】2020年3月9日(月)13:30~18:00 奈良女子大学

日仏社会学国際シンポジウム

テーマ:社会学と人類学:比較分析の方法

Sociologie et anthropologie : méthodes d'analyses comparées

講演I. 神話の構造分析の誕生:デュルケーム、グラネ、レヴィ=ストロース

Naissance de l'analyse structurale des mythes: Durkheim, Granet, Lévi-Strauss



講演者 ジルダ・サルモン Gildas Salmon (国立科学研究センターCNRS・社会科学高等研究院  
EHESS)

講演2. フィールド研究における方法としての『比較』:中国社会学研究の経験から

La «comparaison» comme méthode dans les recherches sur le terrain: à partir  
de l'expérience des études sur la société chinoise

講演者 佐々木衛 SASAKI Mamoru (神戸大学名誉教授)

主催:日本学術振興会「学術研究動向等に関する調査研究」、日仏社会学会、デュルケーム/デュ  
ルケーム学派研究会 共催:奈良女子大学社会学研究会、神戸大学社会学研究会

■■ラウンドテーブル【延期】 2020年3月10日(火) 10:30~12:30 奈良女子大学

内容:サルモン氏を囲みフランスや日本の社会学事情・社会事情などについて自由に歓談

■■東京会場【延期】 2020年3月20日(金・祝) 13:30~18:00 日仏会館

日仏社会学国際シンポジウム

テーマ:モダニティを問い直す:デュルケーム、ブルデュー、さらにその先へ

Repenser la modernité: Durkheim, Bourdieu et au-delà

・ジルダ・サルモン Gildas Salmon

近代人および非=近代人における機械的連帯と有機的連帯:ブルデューと進化主義の危機

Solidarité mécanique et solidarité organique chez les modernes et les non-modernes: Bourdieu et la crise de l'évolutionnisme

・川本彩花 Kawamoto Ayaka (日本学術振興会特別研究員・滋賀大学)

趣味と階層:文化資本の日本的状況

Goût et stratification sociale: situation japonaise du capital culturel

・山田陽子 Yamada Yoko (広島国際学院大学)

感情資本と新しい労働:有機的連帯の現代的位相

Capital émotionnel et nouveau travail: phase moderne de la solidarité organique」

司会 白鳥義彦(神戸大学)

主催:日本学術振興会「学術研究動向等に関する調査研究」、日仏社会学会、デュルケーム/デュ

ルケーム学派研究会 共催:日仏会館・フランス国立日本研究所、公益財団法人日仏会館

■第40回研究例会■2021年3月21日(日)オンライン

総会 13:00~13:30(会員のみ参加)

研究報告 13:30~17:30(会員+一般参加)

第1部 自由報告 13:30~15:15

新型コロナ禍における女性の自殺-『自殺論』再考 山田陽子(追手門学院大学)

コメンテーター:江頭大蔵(広島大学)

第2部 合評会 15:30~17:30

『社会学の基本 デュルケームの論点』を読む

\*パート1:講評 15:30~(各20分程度)

評者:油井清光(神戸大学名誉教授)

評者:流王貴義(東京女子大学)

\*パート2:全体討議 16:30ごろ~

司会:小川伸彦(奈良女子大学)

※ 合評会の内容については、次の通り刊行している

白鳥義彦,「合評会報告:デュルケーム/デュルケーム学派研究会著『社会学の基本 デュルケームの論点』(二〇二一年、学文社)を読む」『社会学雑誌』38号, pp.261-262, 2021年.

<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/E0042504/>

油井清光,「(合評会報告)書評一:『社会学の基本 デュルケームの論点』(二〇二一年、学文社)を読む」『社会学雑誌』38号, pp.263-267, 2021年.

<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/E0042505/>

流王貴義,「(合評会報告)書評二:『社会学の基本——デュルケームの論点』」『社会学雑誌』38号, pp.268-276, 2021年.

<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/E0042506/>

■第41回研究例会■2021年10月2日(土)13:00~17:30 オンライン

総会

報告 1. デュルケムの道徳教育論—意志の自律性に注目して 水谷友香(成安造形大学)

コメンテーター:白鳥義彦(神戸大学)

報告2. 集合的記憶論における mémoire 概念について 武内保(早稲田大学)

コメンテーター:横山寿世理(聖学院大学)

司会 古市太郎(文教学院大学)

■第42回研究例会■2022年4月29日(金)13:00~17:30 オンライン

総会

報告1. 社会的力と個人の独自性——ベルクソンとタルドを結びつける視座として

笠木丈(京都産業大学)

コメンテーター:中倉智徳(千葉商科大学)

司会:池田祥英(早稲田大学)

報告 2. 「集合意識」から「情動の社会学」へ:デュルケーム社会学の現代的展開を目指す科研

費研究の始動

小川伸彦(奈良女子大学)、白鳥義彦(神戸大学)、山田陽子(大阪大学)、横山寿世理(聖学院大学)、梅村麦生(神戸大学)、川本彩花(日本学術振興会)

司会:古市太郎(文京学院大学)

■第43回研究例会■2022年11月26日(土)13:00~17:30 文京学院大学

総会

報告1. 社会運動論としてのグレーバーをデュルケーム・モースの視座から読みとくー贈与・権力・ケア・遊び・理想を軸にして 林大造(追手門学院大学)

コメンテーター:赤羽悠(早稲田大学)

報告2. グレーバーによる市場経済(イデオロギー)批判と『 Kommunismus』の意義:贈与、倫理・責任、

価値 古市太郎(文京学院大学)

コメンテーター:岡崎宏樹(神戸学院大学)

報告3. 「情動の社会学」への試み:デュルケーム社会学からの展開

小川伸彦(奈良女子大学)、白鳥義彦(神戸大学)、山田陽子(大阪大学)、横山寿世理(聖学院大学)、梅村麦生(神戸大学)、川本彩花(日本学術振興会)

司会:池田祥英(早稲田大学)